

健康に牛を飼うことで 見えてくるもの

茨城県石岡市 鈴木牧場



2010.11.1 日本有機農業研究会 第3回 市民公開研究会
『現代畜産の諸問題と有機農業』
青少年オリンピック記念センター

【テーマ】

健康な牛と、楽しい酪農

- 適正規模
- いい循環と持続性
- 健康な牛
- 五感を働かせる酪農
- 楽しい仕事、楽しい酪農
- 消費者との顔の見える関係

石岡・鈴木牧場 ～自己紹介～



牧場の基礎データ

- 飼料畑面積 **4.4ha**

4.4ha	5月～9月	10月～5月
	トウモロコシ 3.8ha →6基のサイレージで 嫌気発酵	(牧草) イタリアンライグラス →ロールにて嫌気発酵
	ソルゴー (マイロ)0.6ha	

- 輸入飼料（不足分） 牧草・エン麦（オーストラリア）
ルーサン（アルファ）（アメリカ）
- 成 牛 **28頭**（搾乳牛25頭、乾乳牛3頭）
- 育成牛 **14頭**
- 労働力 酪農：夫婦2人、
- ヨーグルト工房・チーズ工房 パートさん2名

鈴木牧場

鈴木 昇 (61歳)
ともえ (60歳)

茨城県石岡市大砂
(常磐道・千代田石岡ICより車で10分)



【1】適正規模 VS 大規模・高泌乳

牛は全部で42頭
飼料自給できる範囲内で
更に少ない頭数にする予定



搾乳量

一般	9,000～10,000kg／年
鈴木牧場	7,000～7,500kg／年



【2】いい循環による持続できる酪農

「健康な生乳は健康な牛から。健康な牛は健康な土作りから。」



土作り

牛の糞に米ぬかや粃殻、チップなどを合わせ水分量を調整しながら、切り返し発酵させる。堆肥の中は60℃～70℃になります。



草作り(夏～秋・トウモロコシ)

牧草を収穫後に飼料用トウモロコシの種をまき、9月に収穫。
サイレージで嫌気発酵。
良い発酵は健康な土づくりから



草作い(秋～春・牧草)

4.4ヘクタールの畑で栽培。
10月に種を蒔いて5月のG.Wの頃に
収穫します。種類はイタリアンライグラス。



自給トウモロコシ・牧草を発酵させます。



【3】健康な牛とは(1)

- 目がいきいきしている
- 肌のつやがいい(代謝がいい)
- 余分な脂肪がついていない
(ブヨブヨの脂でなく、しまった脂)
- 長生き(7~8産)(一般では2~3産)



健康な牛とは(2)

- 臭くない牧場
- におわない堆肥
- 夏バテしない
- 乳の香いがいい
- 良く食べて早食いする

(乾物粗飼料12～13kg/日食べる 一般9kg/日)

- 良いエサをやればやるほど健康になる
- 仔牛が自力で生まれる(助産しない)
- 自家産牛でまかなえる(牛を買わない)



(牛の三大疾病)

疾病	原因
繁殖障害	ホルモン剤
乳房炎	穀類多給・抵抗力低下
起立不能	カルシウム不足、太りすぎ

○その他
口蹄疫
BSE

牛骨粉レンダリング、プリオン変異～土壌ミネラル問題

熊谷先生との出会い

1987年、一人の先生との出会いで
目指す道が決まった。



【4】五感を働かせる農業

1979～1987年	1987 ～ 2000 ～ 2010年
頭と数値の酪農	五感を働かせる酪農へ
標準的指標を基準にする 数値にする TDN、カロリー	牛にさわる(ボディーコンディション)、草やトウモロコシを食べる、土の味を確かめる。 数字にはしない。
獣医としてのプライド	ひたすら良いエサを与える 良いエサをつくるために土作りに励む
牛がどんどん弱くなっていった 乳房炎 消化不良から起立不能 仔牛が流産	牛が健康どんどん健康になった 自家産牛で回転でき、牛を買うことがなくなった。
薬で治療	地味なことをコツコツ重ねて10年してようやく良い循環が生まれて安定した。
	たくさんのいい人に恵まれた いい消費者とおつきあいがはじまった

【5】楽しい仕事・楽しい酪農

- 気持ちがいい農業
- 仕事楽しい
- いい香りの牧場、いい香りのエサ
- いのちが循環している
- 地域の豊かな人間関係

【6】消費者との提携・顔の見える関係



毎年の恒例行事 牧場交流



牧場に訪れる生協組合員



生協組合員の要望から生まれた ヨーグルト(2004年)



経産牛肉の取り組み(2008年)

「鈴木さんの牛、最期まで大切に頂きます」 (生協組合員)



生協組合員による
事前の試食検討会

念願のチーズ作りへ (2009年)

鈴木さんが目指したのは
良質な生乳を使った
軟らかいチーズ

